



編集・発行  
日蓮宗 能勢妙見山  
広 報 部

〒563-0132  
大阪府豊能郡能勢町野間中  
電 話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

# 一生空しく過ごして 萬歳悔ゆること勿れ

日蓮聖人『富木殿御書』

久しぶりに旧友に会い年月の経過を感じました

おそらく彼も同じ思いに駆られたことでしょう

老いは全ての人に平等に訪れます

この先の自身の姿を浮かべて今を大切に生きましょう

## 【12月の行事予定】

★写経会

★清掃の日

★月例祈願法要

★鷗様月例祭

7日(日) 11時  
15日(月) 11時  
15日(月) 13時  
22日(月) 15時

この日にご祈禱を受けた方には  
火伏せの守り札(鷗様の黒札)を授与します

## 【1月の行事予定】

☆正月歳始祈禱

1日～15日

※新年の開運シールを授与します

※歳始祈禱申込み受付中です

お問合せは寺務所窓口へ

★書き初め写経会

★清掃の日

★月例祈願法要

★鷗様月例祭

11日(日) 11時  
15日(木) 11時～12時  
15日(木) 13時  
22日(木) 15時

妙見様のご縁日祈願法要 開運殿にて厳修

この日にご祈禱を受けた方には  
火伏せの守り札(鷗様の黒札)を授与します

◎ご祈禱・ご回向等のお申込はFAX・メールでも  
受け付けています

◎送迎バス 奉賛会会員並びに、ご祈禱ご回向のために  
ご参拝のご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅  
から山上までの送迎車を用意しています

利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡を  
願います 但しご希望に添えないこともあります

## 知遇し頂戴せん

石原崇広

年の瀬が近づくと、新年に向けて落ち着いて年が越せるように「正月事始め」といつて十二月十三日から

正月準備をする風習があります。家の掃除をしたり、忙しく日々を過ごしていると、体調を崩しやすくなるのもこの時期です。体が弱った時程、何かのせいにしたくなる気持ちも一つや二つあるかもしれません。

鎌倉時代の随筆家吉田兼好は、徒然草の中で、迷信や俗信に依存して自分を見失っていた人々に対し、こう記しています。

「吉日に悪をなすに必ず凶なり。悪日に善を行ふに必ず吉なりと言へり。吉凶は人によりて日によらず」

吉凶は私たちの普段の心がけによるもので、日々の良し悪しであらかじめきまってはいるという意味

です。とても好きな言葉で、改めて一日の中で自分の心の声に耳を傾けていく時間をもとう、自身を置き去りにしない生き方を養っていかうと、思えてきます。

今年を振り返って一番の思い出は、母と大阪万博に行けたことです。兄家族と一緒に行った母が大屋根リングを見て感動し、一生に一度だからと、私を誘ってくれました。前評判があまりよろしくなかった万博に半信半疑でしたが、大屋根リングを歩いた時、この時代に生まれて良かったという感謝と、素晴らしい瞬間に出会えて良かったという喜びが自然に私の心に湧いてきました。

今この瞬間、かけがえない出会いの中で私たちは生かされています。仏典では出会うということに「値う」という字をあてます。

開経偈に「生生世世、値遇し頂戴せん」という言葉

があります。幾度生まれ変わったとしても、このありがたい「法華経」に会い、信じ続けることを心からお誓いますという、奇跡的に法華経に出会えたことに對しての喜びをさします。

法華経を通して、私たちはどんなに困難な時も、私たちを救う為に見守っておられる仏さまに出会うことができます。この出会いこそ吉凶を超えた無上の喜びではないでしょうか。

## 正月三ヶ日の

### 送迎車のご案内

奉賛会員並びにご祈禱ご回向にご参拝の信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅から山上までシャトルバスを用意します。但し人数により、ご希望に添えない場合もあります。

## 《法華経に学ぶ現代》

～純智庵～

### 此の法を

### 演ぶるを

### 以ての故に

### 衆に於て

### 畏るる所

### なけん

『法師功德品第十九』

思ったことを

ハッキリ言えば

スッキリするが

それが云えない今の世は

唇寒く

身もちぢむ

公的、私的小うるさく

上げ足するのは

止めにして

もつと本音で語ろうよ

大切なのは信念だ

## 知識まめ仏教

### 降伏（こうふく）

「こうふく」と読めば、参りましたと敵に降参する意味となるが、仏教では「こうぶく」とごつて読む。

今月12月8日は釈尊

成道の日。釈尊の修行中7年の間、ずっと悪魔がつきまとうて悟りの邪魔をしていた。この日、釈尊は尼連禪河（ネーランジャー河）の畔で悟りを得るための瞑想に入ったが、悪魔は「そんなに努力して悟りを得ても一体何の得があるのでしょう」と、最後の誘惑をかけてきた。しかし釈尊は応じることはなく、明けの明星が輝く頃、これ以上いくら誘惑しても無駄であることを知った悪魔は消え失せていった。釈尊の降魔成道の物語として語り伝えられている。降参させるのではなく、慈悲心に基つきその悪質を取り除いて安楽にせしめようとするのが仏教の降伏である。